

科目名：表現技法 I	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 (15 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 濱野 秀樹	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>看護は対象の心情や状況を読み取り介入する。その為ここでは書かれた文章を正しく理解し、利用し、熟考する能力を養う。さらに読解力が低いと文章力も低くなる。文章作成の基本と共に、文章上だけでなく適切な伝え方についても思考し、知的活動でも社会生活でも実践的な日本語の運用能力を身につける</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言葉をめぐる様々な概念を理解し、適切に応用できる。 2. 日本語による文章作成の基本的な能力を身につける。 3. 適切な表現方法で自分を表現できる。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> ①. 自分自身を豊かに文章表現する力を養う <ul style="list-style-type: none"> ・自分を早く、より良く理解してもらうための自己紹介 ②. 出来事を相手に詳しく伝える文章表現力を養う① <ul style="list-style-type: none"> 「ある日ある時の心に強く残ったことを詳しく綴る」(自分で) ③. 出来事を相手に詳しく伝える文章表現力を養う② <ul style="list-style-type: none"> 「ある日ある時の心に強く残ったことを綴った友達の文章から学ぶ」 4. ある芥川賞作家(女性)の作品から学ぶ① <ul style="list-style-type: none"> ・文章の読み取り ⑤. ある芥川賞作家(女性)の作品から学ぶ② <ul style="list-style-type: none"> ・詳しく書く書き方 ・感想文 6. 星新一の「おーいでてこーい」を読んで感想をまとめる 7. 読む人にとってわかりやすい文章を書くために①修飾するという問題 <ul style="list-style-type: none"> ②句読点の打ち方 ⑧. 筆記試験(まとめ) 表現技法 I で学んだこと <p>※○印は、レポート作文の提出</p>	
成績評価の方法・基準	毎時書いたりレポート、筆記試験の総合評価とする	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>なし</p> <p>【参考文献】・</p>	
履修上の注意事項	<p>教材に使う「文章」については、分からない言葉等自主的に調べて参加すること</p> <p>提示した課題等には主体的かつ積極に取り組むこと</p>	

科目名：表現技法Ⅱ	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 (15 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 濱野 秀樹	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 看護者にとって、事象を分析的・論理的に思考し科学的なものの表現方法を身につけることはすべての基礎として重要である。表現方法Ⅰをうけて、ここでは討論を行い他者の見解・批判を取り込んでさらに考察を進めるとともに、実際にプレゼンテーションも体験する。</p> <p>【目標】 1. 討論において、肯定的・批判的意見をだす技能を身につける。 2. レポートの内容をまとめて、発表する技能を身につける。</p>	
授業の計画	<p>1. } 敬語の使い方① 敬語についての基本的内容の理解 ロールプレイングによる敬語の使い方の学習①〔役割〕〔場面〕</p> <p>②. } 敬語の使い方② ロールプレイング②による敬語の使い方の学習 ・学習のまとめ(作文)</p> <p>3. } ビブリオバトルによる</p> <p>④. } プレゼンテーションの仕方と説明を受けての質問や意見の表明 ・学習のまとめ(作文)</p> <p>5. } 論理的文章表現力の養成</p> <p>⑥. } 論文形式の文章を書く力の育成</p> <p>7. } ※本論の書き方を重視して</p> <p>⑧. まとめ 小論文作成「私と看護」</p> <p>※○印は、レポート作文の提出</p>	
成績評価の方法・基準	毎時のレポートや課題等の提出物、最後に書く小論文を総合して評価する	
テキスト	<p>【教科書】 なし</p> <p>【参考文献】</p>	
履修上の注意事項	自分が読んだ本で友達に紹介したい本を 1～2 冊決めて用意しておくこと	

科目名：看護情報学	配当年次1年	開講時期 1年前期・後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義・演 習	
担当者： 豎山 明彦・佐藤 知伸	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 コンピューターや通信ネットワークの進展が著しい現代においてあらゆる分野で情報技術・通信技術が活用されている。ICTを用いて看護に必要な情報を入手し、入手した情報を正しく活用する力、情報を適切に管理し、マネジメントする力、医療においてICTを活用することの課題を理解する基礎的能力身につけることを目的とする。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報技術の発展と社会の変化について理解する。 2. 情報倫理について理解する。 3. PCの仕組みと機能、インターネット、情報セキュリティの基礎を理解する。 4. 学習や社会生活の場面で安全、効果的にPCや通信ネットワークを利用できる。 5. 保健医療・看護の現場でどのように情報が取り扱われているかを知る。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.2. ICT活用と情報セキュリティ／情報の定義とコンピュータの基礎構造 3. MicrosoftWORDの操作の基本（パソコン実習） 4. 情報倫理と個人情報 5.6. 医療情報の取り扱い／医療情報の標準化 7.8. 医療データベース／医療情報システム 9. EXCELの基礎・EXCELを使った統計処理（パソコン実習） 10. ヘルスケア政策について 11. 地域医療と情報技術 12. 統計処理について 13. 看護職場を想定した操作や活用（パソコン実習） 14. 看護情報学演習 15. 試験・「看護情報学」まとめ 	
成績評価の方法・基準	演習課題、最終試験の総合評価とする	
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 別巻「看護情報学」医学書院eテキスト</p> <p>【参考文献】</p>	
履修上の注意事項		

科目名：生物学	配当年次1年	開講時期 1年前期																																								
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義																																									
担当者： 牧野 彰吾	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>																																									
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 生命体の特性、生殖と発生、外部からの刺激の受容や内部環境の維持について理解し、広く生命現象に係る知識を習得する。特に人の体の構造及び機能に関して学び、体の各部分の機能の低下と病気との関係について理解する。また栄養素について学びどのように体内で利用されるのかについて理解する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物の基本単位である細胞の構造や機能、および細胞が集まって形成される組織や器官について理解する。 2. 生命活動に必要な栄養素や、体内で起こる物質代謝について理解する。 3. 生物が受精によって遺伝物質を親から子に伝える仕組みや受精卵が分化する過程について理解する。 4. 再生医療とはどのような医療なのかについて理解する。 																																									
授業の計画	<p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 生物とは</td> <td>19. 受精の確立</td> </tr> <tr> <td>2. 細菌とウイルス</td> <td>20. 遺伝の法則</td> </tr> <tr> <td>3. 生物を大別する 原核生物 真核生物</td> <td>21. ヒトの遺伝・遺伝子発現のしくみ</td> </tr> <tr> <td>4. 真核生物の特徴</td> <td>22. 塩基配列 遺伝情報</td> </tr> <tr> <td>5. 真核細胞におけるタンパク質合成のシステム</td> <td>23. 生殖と発生</td> </tr> <tr> <td>7. 化学構造式の書き方</td> <td>24. 再生、再生医療</td> </tr> <tr> <td>6. 生物体を構成する化学成分</td> <td>25. 環境の定義</td> </tr> <tr> <td></td> <td>26. 反作用（環境形成作用）の例</td> </tr> <tr> <td>8. 分子式と示性式の違い</td> <td>27. 陽性植物と陰性植物について</td> </tr> <tr> <td>9. 化学構造について</td> <td>28. 生物と環境の関わり、演習問題</td> </tr> <tr> <td>10. //</td> <td>29. 地球環境とヒトとの共存</td> </tr> <tr> <td>11. 分子構造の省略形</td> <td>30. 試験・解説</td> </tr> <tr> <td>12. 生体内の化学反応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. 化学反応式の基礎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. 生体維持のエネルギー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. 体内における化学反応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16. 細胞分裂</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17. 遺伝子とDNAの関係</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18. 染色体</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>染色体分析と性染色体の決定</td> </tr> </table>		1. 生物とは	19. 受精の確立	2. 細菌とウイルス	20. 遺伝の法則	3. 生物を大別する 原核生物 真核生物	21. ヒトの遺伝・遺伝子発現のしくみ	4. 真核生物の特徴	22. 塩基配列 遺伝情報	5. 真核細胞におけるタンパク質合成のシステム	23. 生殖と発生	7. 化学構造式の書き方	24. 再生、再生医療	6. 生物体を構成する化学成分	25. 環境の定義		26. 反作用（環境形成作用）の例	8. 分子式と示性式の違い	27. 陽性植物と陰性植物について	9. 化学構造について	28. 生物と環境の関わり、演習問題	10. //	29. 地球環境とヒトとの共存	11. 分子構造の省略形	30. 試験・解説	12. 生体内の化学反応		13. 化学反応式の基礎		14. 生体維持のエネルギー		15. 体内における化学反応		16. 細胞分裂		17. 遺伝子とDNAの関係		18. 染色体			染色体分析と性染色体の決定
1. 生物とは	19. 受精の確立																																									
2. 細菌とウイルス	20. 遺伝の法則																																									
3. 生物を大別する 原核生物 真核生物	21. ヒトの遺伝・遺伝子発現のしくみ																																									
4. 真核生物の特徴	22. 塩基配列 遺伝情報																																									
5. 真核細胞におけるタンパク質合成のシステム	23. 生殖と発生																																									
7. 化学構造式の書き方	24. 再生、再生医療																																									
6. 生物体を構成する化学成分	25. 環境の定義																																									
	26. 反作用（環境形成作用）の例																																									
8. 分子式と示性式の違い	27. 陽性植物と陰性植物について																																									
9. 化学構造について	28. 生物と環境の関わり、演習問題																																									
10. //	29. 地球環境とヒトとの共存																																									
11. 分子構造の省略形	30. 試験・解説																																									
12. 生体内の化学反応																																										
13. 化学反応式の基礎																																										
14. 生体維持のエネルギー																																										
15. 体内における化学反応																																										
16. 細胞分裂																																										
17. 遺伝子とDNAの関係																																										
18. 染色体																																										
	染色体分析と性染色体の決定																																									
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%																																									
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 生物学 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p>																																									
履修上の注意事項																																										

科目名：英語	配当年次1年	開講時期	1年前期							
単位・時間：英語 1単位（30時間）	授業の方法：講義									
担当者：MARTIN WOODALL		実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>								
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>看護現場の国際化は多種多様となって、異文化交流は今後看護にとってさらに必要となってくる。</p> <p>当校では、「論理と表現」とともに言語は違えども、論理的に文章を解釈し、読み、聞く、自分の考えを表現する能力を身につけてもらうことをねらいとする。</p> <p>語学の基本は語彙力と文法力である。英語のルールを学び、文法を確認しながら聞く・話すといった基礎的な英語力を身につけると共に英語でのコミュニケーションに対する積極的な態度を身につけてもらいたい。さらに基礎的知識としての語学力の向上とともに、医療現場で使われる英単語や会話に触れ、多様な対象とのコミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。</p> <p>1. 基本的な英語構文を使用し、読解さらに聞く話すことができる。</p> <p>2. 医療現場で使われる英単語や英語での訴えに対する返答、挨拶等が理解できる。</p>									
授業の計画	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> 1. } 2. } 構文の分析、例文の読解 3. } 4. } 5. } 基本的英語構文による会話 6. } 7. } 8. } 医療英語：身体各部・機関の名称 / 病名・症状等の医療英語 </td> <td style="width: 25%; vertical-align: top;"> 9. } 10. } 看護師のための英会話 11. } 医療関係記事やエッセイの読解 12. } 13. } </td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">14. 学習効果 ポイント確認</td> <td colspan="3" style="vertical-align: top;">15. 筆記試験、まとめ</td> </tr> </table>			1. } 2. } 構文の分析、例文の読解 3. } 4. } 5. } 基本的英語構文による会話 6. } 7. } 8. } 医療英語：身体各部・機関の名称 / 病名・症状等の医療英語	9. } 10. } 看護師のための英会話 11. } 医療関係記事やエッセイの読解 12. } 13. }		14. 学習効果 ポイント確認	15. 筆記試験、まとめ		
1. } 2. } 構文の分析、例文の読解 3. } 4. } 5. } 基本的英語構文による会話 6. } 7. } 8. } 医療英語：身体各部・機関の名称 / 病名・症状等の医療英語	9. } 10. } 看護師のための英会話 11. } 医療関係記事やエッセイの読解 12. } 13. }									
14. 学習効果 ポイント確認	15. 筆記試験、まとめ									
成績評価の方法・基準	筆記試験100%									
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>LIFESAVER Basic English Medical Situation Macmillan LanguageHouse</p> <p>【参考文献】</p>									
履修上の注意事項										

科目名：生命倫理	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 佐藤 桃子	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 看護を学ぶものとして、人間存在についての幅広く、全人的な視野を獲得し、一人ひとりの患者に関わることの意味や態度について基本的な理解を得ることをねらいとする。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間の生命に対する基本的理念および倫理観を養い、医療場面で課題となる事項について考え方や価値観を明確にする。 死をめぐる現代医療の課題についてさらに自発的学習を深めることができる。（演習） 	
授業の計画	<p>死をめぐる現代医療の課題／課題に対する文献検索と討論</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間と倫理 生命倫理の成立と歴史的背景 3. 4. } 「生」の操作をめぐる倫理学 5. 6. } 「遺伝子」の操作をめぐる倫理学 7. 8. 9. } 「死」の操作をめぐる倫理学 10. 11. 12. 13. 21世紀の生命倫理学の課題を考える 14. 15. 課題に対する記述、まとめ：生命倫理が現代倫理学に提起した問題 	
成績評価の方法・基準	課題レポート 100%	
テキスト	<p>【教科書】 市民のための生命倫理：伊坂青司、（神奈川大学評論ブックレット）御茶ノ水書房</p> <p>【参考文献】 配布資料</p>	
履修上の注意事項		

科目名：生涯発達学	配当年次1年	開講時期	1年前期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義		
担当者： 滝沢 和香奈	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 人間は生涯を通じて発達する存在である。看護の対象である乳児期から老年期まで各期の発達段階について身体的・心理社会的発達を概観し、看護の対象理解や人間が人との関係のありさまに相互に影響されながら成長発達する存在であることを理解し、変化する発達段階の応じた看護が展開できる素地としたい。また自己理解につながるようになることを狙いとする。</p> <p>【目的】 1. 生涯発達について基本的視野や要素を理解する。 2. 人間の成長発達加齢の過程の特徴を生涯発達の考え方に基づいて理解する。</p>		
授業の計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・発達とは 2. 発達のメカニズム 3. エリクソンのライフサイクル論 4. 運動機能の生涯発達 新生児期の種々の反射から獲得、高齢期までの粗大運動や微細運動の生涯発達について 5. 認知の発達・感覚について 6. 認知の構造 7. 言語機能の生涯発達 8. 情動の生涯発達 中間テスト 9. 知能の生涯発達 10. 記憶の生涯発達 11. 愛着の生涯発達 ①愛着の形成 12. " ②仲間関係と社会性の発達 13. " ③異性関係と愛着 14. 自己意識の生涯発達とパーソナリティの生涯発達 15. 試験・まとめ 		
成績評価の方法・基準	出席点、課題点、最終試験の総合評価とする		
テキスト	<p>【教科書】 なし</p> <p>【参考文献】 鈴木忠雄他 2016 生涯発達心理学 有斐閣アルマ</p>		
履修上の注意事項			

科目名：生涯教育	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期・後期
単位・時間： 1 単位（ 30 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 大山 博幸	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 人間の成長発達と学習、社会教育について学び、看護における教育の役割および生涯教育の必要性を理解する。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長発達と教育との関連について学び、自己の生涯的な教育・成長が看護に深くかかわっていることを理解する。 2. 看護師として必ず行う患者教育を模擬実習し、フィードバックする中で、教育評価の意義、自己評価の意義を明らかにするとともに教育方法を整理する。 3. 生涯学習とボランティア活動の関係がわかり、ボランティア活動に必要な基礎的知識が理解できる。 	
授業の計画	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2 教育とは何か「教える」とは何か家庭教育・学校教育・社会教育の 3 領域 自己概念の明確化ワーク「私はだれ」 3. 4 Education の語源、自己実現についての教育、学習とは何か 自己の気づきを促すワーク「 」 5. 6 学習とは何か 生涯教育とは何か その思想と 3 つの発展 自己の気づきを促すワーク「 」 7. 8 日本の生涯教育、生涯学習政策、成人学習論 コアフレクション、良さを見つける、ディープリスニング 9. 10 ボランティア活動について 11. 12 成人学習論 13. 14. 成人学習の根拠としての発達段階論 15. 試験・まとめ 	
成績評価の方法・基準	出席点、平常点、最終試験の総合評価とする	
テキスト	<p>【教科書】 なし</p> <p>【参考文献】 『聴く』ことのか 鷺田清一 著 TBS ブリタニカ 「カウンセリング第 4 版」 伊東 博 著 誠信書房</p>	
履修上の注意事項		

科目名：文化人類学	配当年次1年	開講時期 1年後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 植村 清加	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>人とその生活を理解するためには、背景にある文化を理解する必要がある。文化によって異なる家族や宗教などの様々なありかたを学ぶ。</p> <p>その中で自分の常識や暮らしぶりがいかに限られたものであるのかを知り、多様な生活様式・言語・習慣・ものの考え方などを尊重することを学ぶ。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会が多様な価値観に基づく複合社会であることを認識できるようになる。 2. 相手を尊重し相手を深く知ろうとする姿勢を身につける。 3. 論理的思考ができるようになる。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1・ 2. 人間と文化 3・ 4. 質的研究とエスノグラヒィー (他者の視点をその文脈の中で理解するということ) /フィールドワーク /ナラティブ 5・ 6. 個人・家族・家族を超えたつながり 7・ 8. 人生と通過儀礼 9・10. 宗教と世界観 11・12. 健康と医療 13・14. 命と文化 15. まとめ・筆記試験 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 文化人類学 医学書院 eテキスト</p> <p>【参考文献】</p>	
履修上の注意事項		

科目名：人間関係論 I	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 (1 5 時間)	授業の方法：講義	
担当者： 松林 幸一郎	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 看護は人間関係を基盤として展開される援助過程である。看護者としての人間のあり方や対人関係の持ち方など、人間関係や人間の行動そのものを理解することが必要になってくる。ここでは人間関係作りの基礎的知識を理解する。</p> <p>【目的】 1. 人間関係向上に向けた基礎的知識・技術を理解する。</p>	
授業の計画	<p>【授業計画】</p> <p>1. } 人間関係基礎理論 2. } 人間関係の中の自己と他者 / 対人関係の役割 3. } 態度と対人関係/集団と個人 4. } 5. } 人間関係を作る理論と技法 (GW での実践含む) 6. } コミュニケーション/カウンセリング/コーチング 7. } アサーティブコミュニケーション/ナラティブアプローチ 8. 試験. まとめ</p>	
成績評価の方法・基準	出席点、平常点、最終試験の総合評価とする	
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 人間関係論 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p>	
履修上の注意事項	講義と共に演習を組み込む。	

科目名：人間関係論Ⅱ	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：演習	
担当者： 重藤 誠市郎	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>人間関係論を学ぶことにより看護の対象となる人間理解、関係作り、指導力を養うための第一歩として、自分を知り、自分自身の人間成長を促し、誠実な態度で他者と向き合える姿勢を養う機会とする。</p> <p>ここでは、体験を通じて協力と信頼について思考し、集団の中でのリーダーシップ・メンバーシップ、さらにはコミュニケーションといったスキルを学習する。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分と他者・自分と集団の関係の持ち方やあり方を考察する。 2. 良好な人間関係を気づくための知識とスキルをトレーニングする。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業展開ガイダンス 2. 3. 4. 身体的活動やゲーム的活動 を通してトレーニングする 5. 6. 7. 8. 9. サービスとは：接遇・おもてなしの心／顧客視点と顧客満足度 他者と効果的なコミュニケーションをとる方法 10. 11. 12. 13. 14. 15 総括 <p>聞くことの意味、傾聴の在り方</p> <p>自己理解と他者理解</p> <p>集団づくり</p> <p>ストレスマネジメント</p>	
成績評価の方法・基準	積極的な参加姿勢（課題）を評価する。	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>【参考文献】</p>	
履修上の注意事項		

科目名：地域の歴史と文化を学ぶ	配当年次1年	開講時期	1年前期
単位・時間： 1単位（ 15時間）	授業の方法：講 義		
担当者：坂戸市・鶴ヶ島市担当職員		実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 本校が所在する「坂戸鶴ヶ島両市ひいては埼玉県」の歴史文化を学び、地域特性について理解する。</p> <p>歴史を学ぶ意義は、言われたことを鵜呑みにせず本当のところはどうなんだろうと自力で探る力、洞察力や分析力を養えるといわれている。看護の対象である地域で暮らす生活者の理解につながると考える。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 坂戸市・鶴ヶ島市の地域特性を理解する。 2. 地域社会の構造機能を理解し、人間の生活の場について考えることができる。 3. 地域で暮らす人々が抱える生活の快適さや不都合さに目を向けることができる 		
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1・2 自然的・物理的・環境的側／社会的・文化的側面／ 3・4 「地域社会の外観」 地形、交通状況、住宅分布、構造、産業の状況／地区ごとの雰囲気の特徴 地域共生社会、コミュニティ 「地域の歴史」 地域の産業や商業の発展状況、地域の景観の変化、住民の生活様式や意識の変化、教育の普及の程度 継承される地域の文化 5・6 課題を持ち、地域に出る。防災訓練や地域イベントに企画・参加し「2」もしくは「3」についてレポートにまとめる。 7・8 〃 		
成績評価の方法・基準	授業参加と課題レポートにて総合評価とする。		
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>【参考文献】</p>		
履修上の注意事項			

科目名：国際協力	配当年次1年	開講時期 1年後期
単位・時間： 1単位（ 15時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 武石 礼司	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>人の移動や交流が活発になるにつれて、保健医療看護の分野においては、エイズなどの感染症、環境問題など国際的視野に立ち地球規模で取り組むべき課題が増加してきている。そのため、私たちが生活する日本に軸足をおき、世界の様々な国・地域と現代日本の相違を学ぶとともに、経済統合や国際的な開発問題、飢餓と貧困、災害救護、地球環境保護などを題材に国際的活動の重要性を理解することをねらいとする。また、これらの題材について学習する上でコンピューターや情報誌等での情報検索が必須となるが、情報の検索、価値判断の力等多くの情報に対応する上での活用方法についても理解する。</p> <p>また、この科目を通して世界に多様な文化、社会、価値観があることを理解し、その人らしい生き方を受け入れられる姿勢を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際交流と協力の現状を理解し、その必要性や意義を認識する。 2. 世界に多様な文化、社会、価値観があることを理解する。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本文化と国際化の現状 2. 世界の国・地域の多様な文化、価値観 3. 4. } 国際的問題とその取り組み 5. } 経済統合や国際的開発問題 6. } 飢餓と貧困、災害救護、地球環境保護等多角的視点からの考察 7. 8. 筆記試験、まとめ 	
成績評価の方法・基準	授業参加と各課題レポート・筆記試験にて総合評価とする。	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院</p> <p>【参考文献】</p> <p>武石 礼司：国際開発論－地域主義からの再構築－，幸書房</p>	
履修上の注意事項		